

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	今後、民生委員の会合に出席し、グループホームへの理解をさらに拡充していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるようグループホームのお茶会に、まずは日時を設定し招き日常的な付き合いが出来るよう、努めていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	自治会、老人会等で草取りや清掃に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で認知症の資料を使用し実際のケアや様子等を報告することで認知症の理解を深めている。	○	今後、職員間で事業所としてどのような地域貢献ができるかを話し合っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的を明確に伝え、全職員で自己評価を行っている。評価結果を参考にして、改善項目について話し合い改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、グループホームの取り組みや状況の報告を行い、また、テーマを決め参加者から質問・意見を頂き、利用者様へのサービス向上に活かしている。外部評価の結果に基づき改善に向けた意見を聞きサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議のメンバーの方々に実際の生活の様子を知ってもらうために、利用者様と一緒にお茶を飲んだり、お話をしてお過ごしてもらう時間を作りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、他のグループホームでの活動の取り組みを参考として聞かせて頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	行事等に参考して頂き、グループホームの活動をもっと理解して頂けるように努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者様個人の意思決定を尊重した支援を行っている。利用者様には、キーパーソンとなる方がおり、判断能力が不十分な場合も対応できる体制が整っている。職員は管理者と共に勉強会を開き、理解を深める様にしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学ぶ機会を持つことにより、自己点検を行い、虐待が見過ごされないように取り組んでいる。言葉・態度での虐待についても話し合う機会を持ち防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、十分時間をとり利用者様や家族に分かりやすく説明をしている。重要事項については、日常の具体的な支援の内容についても理解をいただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>昨年度に引き続き、本年度も月に1度、介護相談員の派遣をもらい、利用者様から出た意見をかえしていただき、その意見をサービス提供に反映するように努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1度発行するホーム便りに、行事の様子や活動エピソード等を取り入れ写真を添えてお知らせしている。また、利用者様個々の生活の様子や健康状態等について、便りとは別に書き添えている。金銭管理は、来訪時に出納帳を確認して頂き、サインを頂いている。</p>	<p>○ 利用者様の現在服用されている薬についてもホーム便り発行時に併せて報告していきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情担当者の設置や意見箱の設置により、苦情や意見を受け付ける窓口や手続きを整備している。また、家族会や来訪時を直接声を聞く機会として捉え活用している。</p>	<p>○ 家族様同士での意見交換や交流を深める機会を作っていくため、家族会の開催回数を増やしていき、その中で様々な意見や要望を頂きたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図る事を心がけ、意見や提案を聞くようにしている。また、言いやすい雰囲気作りにも留意している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様や家族の個別のニーズに応じられるよう、可能な限りの配慮を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様一人ひとりに担当を決めないで、利用者様と職員が馴染みの関係を作れるシフトを組んでいる。異動や離職があっても、利用者様や家族に不安や心配が出ない様配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修に、職員の能力・経験年数・スキルに応じ積極的に参加している。また、受講内容を職場に持ち帰り共有するよう研修報告書を作成してもらい回覧している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会において知り合った同業者と情報交換や意見交換をできるだけ多く持つ様心がけている。</p>	<p>○</p> <p>同業者の部会があれば出席し、交流を持つと共に情報交換を行いサービスの質の向上に努めたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者・主任は職員の顔色・表情を見ながら疲労やストレス等に気を配り、声を掛けたりするようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の個々の性格や得意分野を把握し、ほめたり、ねぎらいの言葉をかけ、向上心へとつなげるように努めている。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前、本人と会い本人の思いや困っていることを直接聞く機会を持ち、本人に受け入れられるような関係作りに努めている。</p>	<p>○</p> <p>相談から利用に至るまでの期間がかなり短い場合もあるので、余裕を持って本人との信頼関係作りができるよう配慮したい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の立場に立って、これまでの思いや今までのサービスの利用状況等をゆっくり聞き、信頼関係を作るようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族にグループホームの機能を十分理解していただくと共に、望んでおられる支援は何なのかを見極めるよう心がけている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用につながる前に、ご本人や家族、ケアマネージャーに見学に来てもらう様働きかけている。入居された日からは、ご本人の不安を少しでも軽減できるよう、積極的に話しかけたり、孤独感を味わわないよう側で寄り添うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に人生の先輩として尊敬して接し、昔ながらの生活の技・文化(切り干し大根作り、まき作り、延べ団子作り、おはぎ作り等)に関わる場面作りを設け、一緒に楽しみ支え合える工夫を行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回発行するホーム便りを送る際、利用者様の状況を伝える事で、情報共有に努め、ご本人と一緒に支える支援をしているという関係を築けるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族、利用者様の思いを見極めながら家族と一緒に外出、外泊を勧めている。また、行事にご家族様を誘ったりしながら、よりよい関係が継続できるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの公民館の行事に参加をして、馴染みの人との関係が途切れないようにしている。また、馴染みの人が、併設事業所(デイサービス・ショートステイ)を利用している場合には、会いに行ったり、ホームに来てもらい交流が出来るよう支援している。	○	一人ひとりの利用者様が馴染みの人や場所との関係が継続できるような支援を行っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相互関係や一人ひとりの性格などについて、職員間で情報を共有し日常の家事や余暇活動を通じ、利用者同士の交流、関わり合えるよう支援している。関係がうまくいかない場合には、職員が調整役となり、関係が悪化しないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設した事業所(特養)へ移った方と、1日の中で何度か会う機会があるので、そのお際にはあいさつをしたり話をしたりする時間を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、コミュニケーション、スキンシップ等を図り、ご本人の希望・要望・意向の把握に努めている。意思疎通が難しい場合には、家族からの情報を元に問いかけ、表情等から組み取る様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしにおいて、ご本人と会話をしながらこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方が聞けるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の一人ひとりの生活リズム、過ごし方を理解し、小さな動作にも気にかけるようにしている。また、できることに注目し、利用者様の一日の暮らしの中に取り込むようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、ご本人の思いや意見を聞いたり、ご家族から情報得、意向を確認し職員でケアカンファレンスをして総合的に支援を行う計画を実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。状態の変化があれば、柔軟にプランを変更し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の暮らしの様子や本人の言葉や食事・水分・排泄等の身体状況を個別の介護記録へ記入している。また、ケアプランの内容が実践につながるように、ケアプラン実施記録へ記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に病院受診は、家族対応をお願いしているが、家族や本人の状況に応じ、職員や同施設の看護師での対応をすることも行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内の演芸ボランティアや高校の吹奏楽部等の協力を得て、利用者様が楽しめるよう支援を行っている。防火訓練では消防署に協力を求め指導を受けている。	○	民生委員との交流を今後図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理容サービスに2ヶ月に1回来て頂き、本人の意向をもとに利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において、地域包括支援センターの職員が参加されるので、関係が強化すると共に情報支援も築けている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医が週2回往診し、定期的に診察して頂き、利用者様の健康管理を行っている。医師との連絡体制が24時間対応で、体調変化時には速やかに医師・家族に伝達し、適切な医療を受けられるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないが、認知症の人の医療に熱心で、家族や職員の話をよく聞き、適切な指示や助言をしてくれる医師がいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者様の薬の管理は同施設の看護師が行っており、日常の健康管理や状態変化した対応はスムーズにできている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、情報提供を行い入院によるダメージを極力防ぐようにしている。入院中の経過や治療などについては、家族や医療機関と情報交換をしながら早期退院に向けての支援をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へは、入居時・入居中において事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行うようにしている。また、状況変化に応じた話し合いが必要な場合には、話し合いを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	契約時、重度化や終末期の状況でのサービス利用は不可能であると説明している。	○	重度化や終末期の利用者を支えるためには、チームの連携・職員の力量・諸条件を備える必要がある。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住むことになった場合には、その方の生活の様子や・好み・趣味・ベッドや家具の配置などの情報提供を行い、住み替えによるダメージの防止に努めている。また、アセスメントやケアプランの情報提供も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが、利用者様の誇りや尊厳を守るために、言葉かけや対応について、十分な配慮に努めている。気になる言動は、その都度個別指導を行っている。	○ 職員一人ひとりが、更に利用者様の尊厳を大切にすため、勉強会・研修への参加を積極的に取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	ご本人の思いや希望を表せるように関係作りや言葉かけを行っている。また、利用者様と過ごす時間を通して、利用者様の関心・好みを把握し、楽しい生活が出来るよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・買い物・献立など、利用者様の希望を聞いたり、選んでもらったりする場面作りを出来るだけ多く持っていただくよう配慮している。また、1日の中で1人で過ごす時間を設けたりペースを尊重しながら支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様の着替えは、本人の意向で決めてもらっている。職員の支援が必要な方には、身だしなみやおしゃれが楽しめるような言葉かけをしながら支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの持っている力を活かしながら利用者様と職員と一緒に食事作りを行い、それが楽しみなものになるように支援している。食後の食器洗いは、利用者様の力に応じ負担にならないように行ってもらっている。	○ 同じフロアで職員も食事を摂っているが、席は別々な為、今後は利用者様と職員が交えながら食事を摂っている様、検討したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時と3時のお茶の時、利用者様におやつを選んでもらったり、好みの飲み物を聞き、楽しみのひとつとなるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時、紙パンツ使用されている場合にも、日々関わりの中で、排泄パターンを把握し、尿失禁パンツへの切り替えを行っている。失敗された場合、本人が傷つかないように、また、周囲にも気付かれないように配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者様の一人ひとりの入浴に対する希望(湯加減)やタイミングを叶えるようにしている。時間帯については、職員配置上、夜間入浴の支援は今のところ実施できない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝・消灯時間などは決めず、テレビをみたり職員と話をしたり、新聞を読んだりして過ごされ、個々のペースに合わせて就寝している。室温調整・布団などの掛け物にも配慮し、安心して休息したり、眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸・農園・手芸・調理など生活歴・職歴などを考慮し、活躍できる場面を見つけている。出来ることの喜びやねぎらい、感謝の言葉はおしまず伝えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を家族了解のもとで行っている。利用者様には、お金の預りを行っており、心配されないように伝えている。買い物に出掛けたときには、レジで個人で支払をしていただくよう見守り、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じたり、心身の健康維持、気分転換を図るためにも、散歩をする機会を多く作っている。また、買い物・ドライブにも出かけている。	○	食事の食材は、町内のお店より毎日配達をしてもらっているが、時には、みんなで食材を買いに出かけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に外出を計画し楽しんでいる。本人が行きたいと思う所へは、家族と相談しなるべく叶えられるように取り組んでいる。	○	敬老週間による水族館の無料開設や美術館からの招待を利用し、見学に出かけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられるようにしており、職員から家族や知人への電話を勧めたりしている。また、家族への手紙や年賀状など個々に応じ支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特別設けず、いつでも来所して頂けるようにしている。面会時には、湯茶を用意し遠慮なく本人とゆっくり過ごせるように配慮している。お帰りの際は、「また来て下さい。」と声を掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼時などに、身体拘束をしないためのケア実践について学ぶ機会を設け、自己点検をし拘束のない生活援助をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけていない。利用者様の気分や行動、様子を見ながら安全面に配慮しながら生活を支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様がホールで過ごされる時間は、職員1名はホールと一緒に過ごしている。また、職員一人ひとりが協力しながら利用者様の様子を把握するようにしている。夜間においては、定時の巡視や状況に合わせて柔軟に対応し、安全に生活できるよう配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ・刃物・針については、扉のついた保管場所へ保管している。洗濯に使用する洗剤(ハイターなど)や掃除に使う洗剤は目隠しをして保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	過去のヒヤリハットや事故の検証確認をし、同じ事故を未然に防いでいる。1人ひとりの状態から考えられるリスクを予測し、事故防止に努め、そして、起きた時の対処について申し合わせている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、心肺蘇生法の講習を受け、実際の場面で活かせるように身につけている。急変時や事故対応マニュアルを作成し、職員間で徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練・消火器の使い方、消火栓の使い方の訓練を行い、職員一人ひとりが身につけている。	○	地元消防団への協力の呼びかけを行い、災害対策に取り組んでいった。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	変化時、危険が予測される時など、その都度、家族に説明をしている。ミーティング時にも対応策について話し合いをしている。	○	1人散歩を希望される利用者様に対して、家族へ起こりうるリスクについて説明し抑圧感のない暮らしを大切にしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定を実施し、日々の関わりの中でも、利用者様一人ひとりの様子(顔色・表情・食事・排泄など)を観察し、異常の早期発見に努めている。異常を認めた場合には、看護師に相談し適切な対応をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は常に確認できるように、個人記録ファイルに閉じている。また、変更時は申し送りノートなどに変更の内容を記入し把握に努めている。服薬については、誤薬・飲み忘れがないよう個別支援を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態を記録し、把握できるようにしている。出来るだけ自然排便ができるよう、食材の工夫、適度な水分提供を行っている。また、散歩や体操などを生活に取り入れ防止に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きを実施し、一人ひとりにあった支援をしている。肺炎の防止・口腔ケアの必要性を理解し、利用者様にも説明したりして、必要性を理解してもらっている。	○	今後、歯科往診の実施ができればと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	感染症予防対策として、タオルからペーパータオル使用へ変更した。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人のなじみの飾り物・置物・写真などを持ってきていただいている。また、自分で作った作品をタンスの上に置いたり壁に飾ったりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の上よみがないよう、直接窓を開けての換気を行ったり、換気扇を使用している。季節により、外気温・室温の調整をエアコンなど利用し、個々の快適な温度で生活できるように支援している。必要に応じ芳香剤を使用し、不快な臭いがないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレに手すりの設置。また、浴室に手すり・介助バーの設置やシャワーチェアを使用し、出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや洗面所の場所が分かる様、貼り紙で表示し、混乱や失敗を防いでいる。居室については、本人が分かりやすい飾り物や大きめの表札をつけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭先内に小さな畑があり、野菜作りを利用者様と一緒にしている。また、テーブルと椅子を置き、食事やお茶が楽しめるよう工夫している。玄関先にベンチを置き、涼んだり、日光浴を楽しむことが出来る。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私達職員一同は、日々の中で利用者様が快の気持ちで、言葉に出していただけるよう、その一瞬の思いを大切に生活支援を行っています。また、利用者様の希望・思いは本人が忘れてしまわないうちに、叶えてあげたいという気持ちで利用者様の思いに寄り添い実践につなげています。山間地の特色をいかし、四季の移り変わりを五感で感じていただいたり、一人ひとりの力を発揮し充実感を味わっていただきながら、穏やかに暮らしていけるよう取り組んでいます。そして、今まで以上に地域の中での暮らしを意識し、地域と支え、支えられる関係にあるよう目指していきます。